

# 開発金融機関との連携強化 より必要かつ重要に

## 特別寄稿 アフリカ開発協会 参与 福永哲也

開発途上国の経済・産業・社会開発を促す上で、これら諸国の開発金融機関（DFIs）との連携強化は、2030年の持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて、かねてから必要性が叫ばれてきた。また、20年に入ってCOVID-19の感染が世界的に拡大すると、その重要性がより一層に増している。筆者は、JICAの専門家として、10年11月から約5年間、南部アフリカ開発銀行（DBSA）（南アフリカ）で、また、16年1月から約4年間、南部アフリカ開発銀行協会（SADC-DFRC）（ボツワナ）で、それぞれ業務を行ってきた。その経験を踏まえて、本稿を執筆する。

南部アフリカ諸国は1960年代当初から相次いで独立を果たした。各国政府は開発戦略・計画を策定し、各国のDFIsがプロジェクト・プログラムを実施するための資金を提供した。当時のDFIsは、採算性の検証を十分に行わないままに資金を提供し続けた結果として、80年代から90年代にかけて資金の回収や返済が計画通りに進まず、財政当局からの補填が巨額に及んで、これら諸国が構造調整の要請を受け入れざるを得ない主要因となった。

2000年代に入ってこれら諸国が持続的な成長を達成するようになって、DFIsの必要性が再考された。新たなDFIsは、それまでの経験を踏まえ、政府系の金融機関としての開発効果の追求とともに、自らの存続性を念頭に置いた採算性の確保の双方を重視するようになった。

2000年代に入ってからのこれら諸国のDFIsは、持続的な経済・産業・社会開発を促すために、かねてから取り組んできた産業開発や農業開発を継続する必要があった。また、一層の開発を阻害しているとの観点から、インフラ開発が求められた。さらに、持続的な経済成長と並行して、総人口、就中、就労人口が急増することが推計される中で、零細中小企業（MSMEs）振興による雇用の創出と貧困の削減が求められた。

この時期はミレニアム開発目標（MDGs）が推進された時期と重なる。MDGsの達成は、当初、政府開発援助（ODA）に依存するところが大ではあったが、08年に世界的な金融危機に直面して、先進各国からのODAには期待できない状況となった。この点は15年9月の国連サミットで採択されたSDGsでも継続してい

る。つまり、SDGsの達成にODAに多くを依存することは困難な状況となった。また、（MDGsの達成に必要とされてきた）官民連携が所期の水準に及ばないことや低調な政府保証の付与、（新たな貸し手の出現による）債務持続性の不安定化といった諸点を主な要因として、国内資金を動員するという観点から、各国のDFIsの重要性が叫ばれてきた。例えば、私が業務を行ったSADC-DFRCでは、SDGsの達成にDFIsがより重要になったことを踏まえ、加盟する40のDFIsをインフラ開発、産業開発、農業開発及びMSMEs振興の4つのグループに分けて、如何なる取り組みが適切であるのかを継続的に議論するとともに、これまでの経験や蓄積を共有して、それぞれのDFIsの日々の業務に活用している。また、DFIsを通じてのBlending FinanceやClean Finance、Finance for the Fourth Industrial Revolution（4IR）といった新たな金融手法の導入が企図されるなど、開発におけるDFIsの中心化が顕在化している。

このような状況にあって、20年の初頭以降、COVID-19の感染拡大が顕在化する中で、DFIsの役割がより大きくなって現在に至っている。その主要因とし

て、以下の諸点を挙げることができる。まず、各国の財政当局は保健や医療、景気刺激策等に対応せざるを得なくなった。また、外国直接投資（FDIs）や外国からの送金が急減する中で、国際収支が悪化している。さらに、通貨安に伴う物価の上昇や対外債務残高の増大が挙げられる。従い、30年に向けて底流に流れるSDGsの達成に向けては、各国のDFIsの役割が必要な資金を担うという点でより重要になっていると言っても過言ではない。

DFIsとの連携強化は、プロジェクト・プログラムに主体的に取り組む日本企業にだけ必要かつ重要になっているのではない。DFIsの役割を十分に認識した上で、日本の政府及び政府系機関が行う多種多様な協力の中にDFIsとの連携強化を組み込むことが、今、まさに求められている。22年の第8回アフリカ開発会議（TICAD 8）の主な議論のひとつとなることが望まれる。

